

1. 立命館大学生「授業外学習時間」の影響要因

『学びと成長レポート (Vol.2)』では、立命館大学生の「授業外学習時間」について、全国の大学の結果から立命館大学学生の授業外学習時間の現状について考察しました。授業外学習には、様々な要因が影響しています。この『学びと成長レポート (Vol.3)』では、「正課への満足度・意欲」、「他の学生と共に学ぶ協同的学習」と「授業外学習時間」の関係を考察してみたいと思います。

※立命館大学生の「授業外学習時間」の詳細は『学びと成長レポート (Vol.2)』を参照してください。

2. 正課への満足度・意欲と授業外学習時間の関係

はじめに、『学びと成長レポート (創刊号)』でも紹介しました、「正課の学びと成長に意欲を持っているか」、「正課の学びと成長に満足しているか」について、授業外学習時間（授業の予復習時間）との関係を見ていきます。

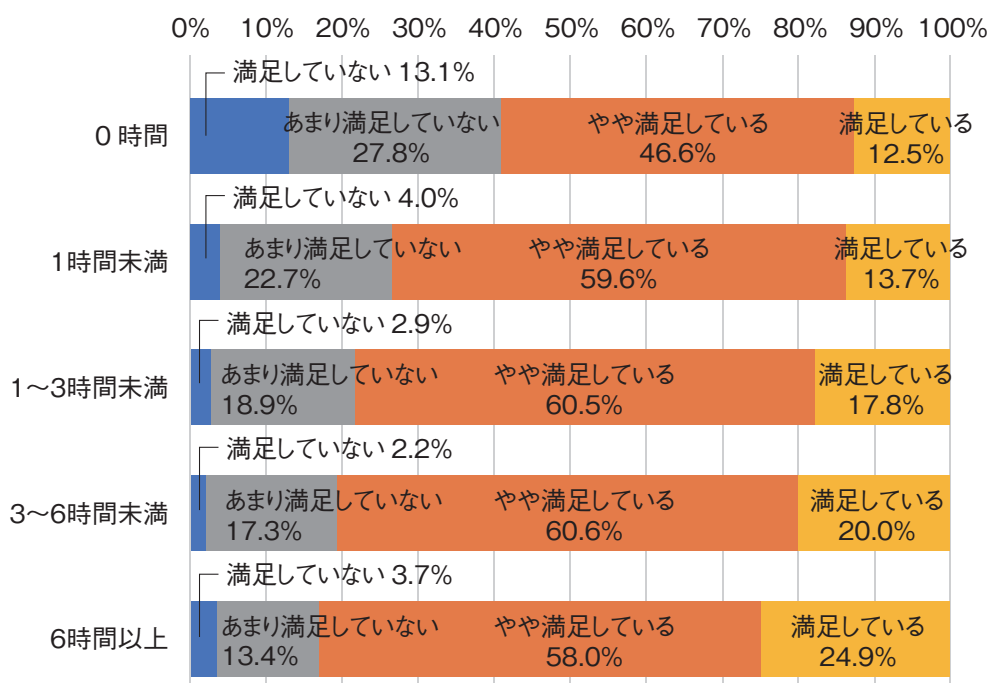


図1 2018年度在学生（2～4回生（薬は6回生））の「授業外学習時間（授業の予復習時間）」と「正課の学びと成長に満足しているか」のクロス集計結果

図1から、予復習時間が0時間の学生は、満足していると回答した学生が12.5%に対し、予復習時間が6時間以上の学生が24.9%という結果となりました。授業の予復習時間が長いほど正課に対する満足度は高いことが伺えます。その一方で、授業外学習に6時間以上取り組む学生の17.1%が「あまり満足していない」「満足していない」と回答している要因については、慎重に検討する必要があります。

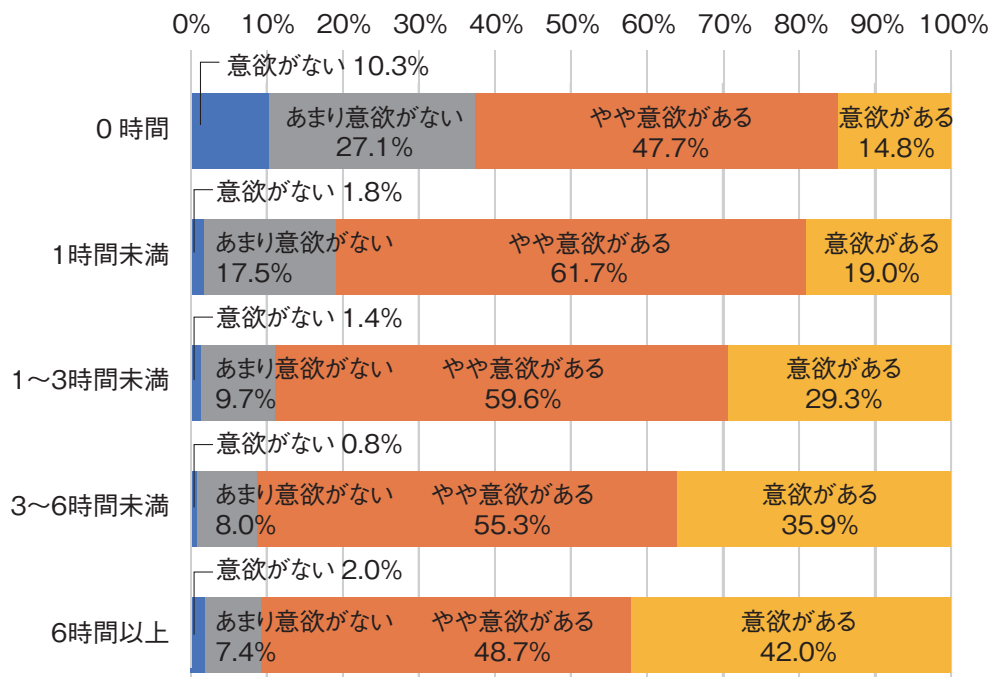


図2 2018年度在学生（2～4回生（薬は6回生））の「授業外学習時間（授業の予復習時間）」と「正課の学びと成長に意欲を持っているか」のクロス集計結果

図2から、予復習時間が0時間の学生は、意欲があると回答した学生が14.8%に対し、予復習時間が6時間以上の学生が42.0%という結果となりました。授業の予復習時間が長いほど正課に対する意欲は高いことが伺えます。先ほどと同様に、授業外学習に6時間以上取り組む学生の9.4%が「あまり意欲がない」「意欲がない」と回答している要因については、慎重に検討する必要があります。



3. 協同的学習との関係

次に他の学生と共に学ぶ協同的学習との関係見ていきます。ここでは、学びと成長調査「問3_06 授業外で他の学生と一緒に学ぼうとする」と「問2_14 他者と協力して目標達成に取り組むことができる」について、授業外学習時間（授業の予復習時間）との関係を見ます。

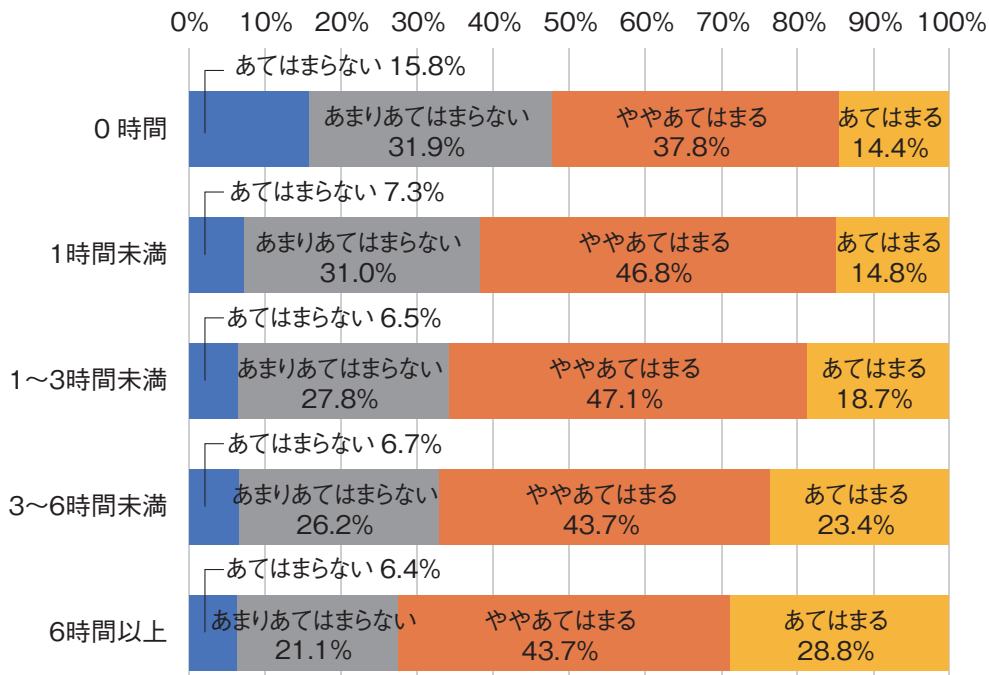


図3 2018年度在学生（2～4回生（薬は6回生））の「授業外学習時間（授業の予復習時間）」と「授業外で他の学生と一緒に学ぼうとする」クロス集計結果

「授業外で他の学生と一緒に学ぼうとする」について考察します。図3から、予復習時間が0時間の学生は「授業外で他の学生と一緒に学ぼうとする」に「あてはまる」と回答した学生が、14.4%に対し、6時間以上の学生が28.8%でした。予復習時間が高い学生の方がより「授業外で他の学生と一緒に学ぼうとする」ことが伺えます。立命館大学では、学生同士の学び合いを重要な特徴とする学びのコミュニティを育ててきており、授業外学習と他者との協同的な学びの結びつきが見られます。その一方で、授業外学習に全く取り組まない学生に対しては有効な支援の必要がありそうです。



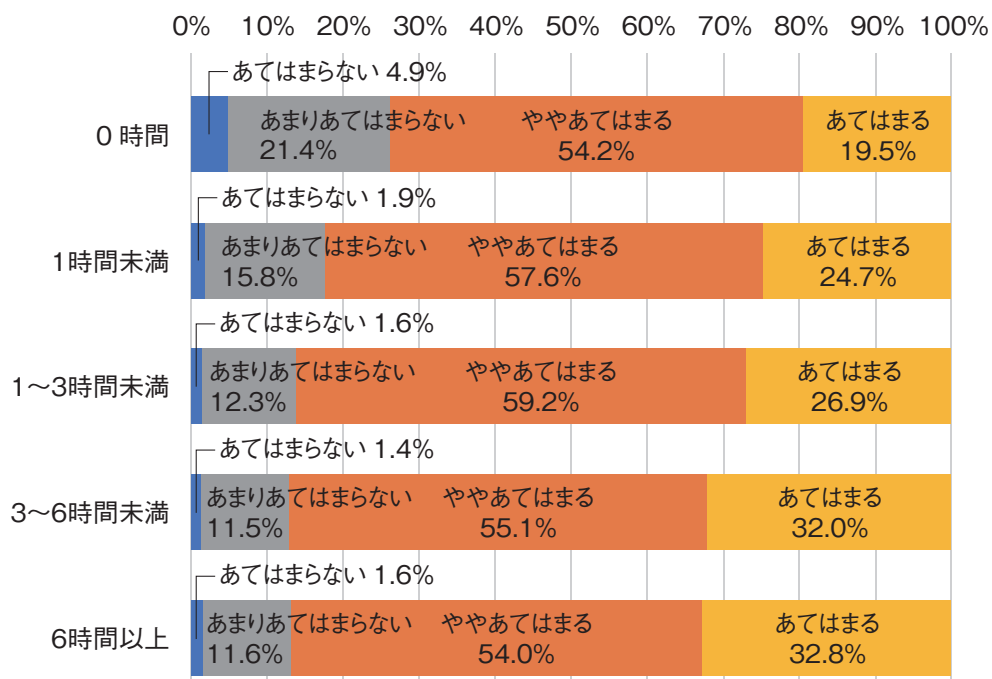


図4 2018年度在学生（2～4回生（薬は6回生））の「授業外学習時間（授業の予復習時間）」と「他者と協力して目標達成に取り組むことができる」クロス集計結果

学習成果の1つである「他者と協力して目標達成に取り組むことができる」ことについての結果を考察します。図4から、立命館大学の学生たちは、おおむね、「他者と協力して目標達成に取り組むことができる」という結果が伺えます。予復習時間が0時間の学生は、「他者と協力して目標達成に取り組むことができる」に「ややあてはまる」「あてはまる」と回答した学生が73.7%でした。1時間以上授業外学習に取り組む学生たちでは、同割合が80%を超え、90%に迫る結果でした。授業外学習に取り組むことと、他者と協力して目標達成に取り組むことができることとの間に結びつきが見られます。

学生の授業外学習時間をどう伸ばしていくかという課題については、学びのコミュニティの発展に向け、「他者と協力して目標達成に取り組む」協同的な学びの支援や活性化も一つの方向性となるでしょう。

